

## 組曲「ひろがるつぶやき」作曲にあたって

絹川 文仁

### Suite "Growing child language"

Fumihito KINUKAWA

#### 本組曲の作曲の意義

作曲者の本来の専門は作曲ではなく、声楽とオペラである。その上で、子ども学科のスタッフとして、授業その他で、少なからず子ども向けの様々な作品を扱っている。大雑把に言って、元々の専門を基軸としたところから、そういった作品を解釈し、実践しているわけであるが、ひとつの模範と足りうることは間違いないものの、教育保育現場により有機的に結びついたものを得ようとした場合、それ以外の側面、即ち、現場の生の状況を様々な形で取り入れながらの作業などが肝要となってくる。おそらくこの種の思考は、教員・保育士養成機関に携わる者の殆どは否定しないものであろう。

特に、子どもが生活の中で何気なく発するつぶやきというものに目を向けることは、子どもの発達のみならず、言葉、人間関係、表現、環境、そして健康、といった保育における五領域とも密接に関わってくることは、保育の世界では半ば常識といって差し支えないものがある。殊、表現の「ねらい」のひとつ“感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ”のひとつの発端ともいうべきもので、その「内容」たる“生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする”“様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう”“感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりする”等のきっかけやある種の表現手段とも位置づけられるのが、子どものつぶやきであろう。そこに内在する大きな可能性は以下のような著述によっても明らかだ。

「人が生まれて人となる過程には、ほんとうにさまざまな人々がかかわります。それらの人々とのかかわりのなかで、やがて1歳の誕生日をむかえ、2歳になり、子どもたちはいつのまにかことばを身につけていきます。この過程で子どもたちがしめす混乱、独特な判断、模倣や創造のしかたは、それ自体として、わたしたち大人にはとても太刀打ちできないような、とほもないエネルギーにみちたイメージの世界をかたちづくっています。(中略)しなやかに、かるやかに、子どものからだは世界をまるごと受け入れます。そのようなからだをとおして、これらのことばは発せられたのでしょうか。自分のまわりの世界を、やわらかな光りがそっと届くようなしかたで確認していく。だれだって生まれたときは、こうして開かれたからだを声をもっていったのです。(\*1)」

そういった子どものつぶやきに作曲を施すという作業は、単純に言って、以上のような理念により沿ったものであることは自明の理で、より望まれる保育のひとつともいえる。そのあたりを人見恵子氏は、精緻な論理展開によって以下のように意義づけている。

「真の“表現”の概念は創造の概念と似通ったところがあるように思われる。表現は人間の内面(感情・イメージ・観念など)をいろいろな形で外へあらわし、他者に伝達しようとすることであるが、創造はその際の独自性、新しさに光をあてているだけで、外へあらわしてその結果何かをつくりあげるという点では、同じようなことを意味しているのではないだろうか。表現にも予め決まっているものを模倣表現する場合と、あらわすものが決まっていない創作表現とがある。前

者の場合、あらかずものが決まっても、人格を通して表現するので創造とも言える。後者の場合の表現は、正に創造である。このように表現と創造は重なり合う。表現の保育は創造の保育でもあると言える。幼稚園教育要領の中の“表現”の目標として“創造性を豊かにするようにすること”が掲げられているが、単に言葉だけでなく“表現”を創造性育成の保育として扱うなら、表現の本来の意味に合致しているといえよう。(中略) 創造に至るための条件としては、次のようなことがあげられる。見たり、聞いたり、触ったりという直接経験を通して、外来の刺激を強く受けられる環境にあること。その刺激から深く感じたり、考えたり、想像すること。自由な雰囲気の中で、解放された心を持って、意欲的に創造に取り組めること。創造に必要な基本的知識や経験・技術を持っていること。(中略) 幼児教育において、即興的創造と考えられる活動にはどのようなものがあり、どのように扱っていけばよいかについて述べる(筆者注：以下人見氏はそれぞれの項目について具体的説明を施しているが、本稿ではそれらを省略する) 1, 遊びの中のメロディ 2, 替え歌づくり 3, 音や言葉のはめ込み 4, 言葉から歌へ 5, 模倣・変奏・応答 6, リズムや音を模倣しようとする 7, 音の発見や採集 8, 楽器づくり 9, マルチメディア表現(\*2) ]

一方声楽コンサートやオペラの舞台に携わる者、いわゆる再現芸術を専らとする者も、作曲という作業が不毛である筈がなく、少なくとも、自らの曲をしたためていくことによって、他者の作品に、受動的な姿勢から一気に能動的な姿勢に転換してアプローチすることが大きく開けること必定なのである。

\* 1 2歳から9歳まで こどものことば ぐるーぶ・エルソル 晶文社 1995 p.9~14

\* 2 季刊音楽教育研究 音楽之友社 1990 p.64~75

## 本組曲作曲の留意点

作曲にあたっての主な留意点は以下の通りである。

- I, 作詞の素材、即ちつぶやきは県立新潟女子短期大学附属幼稚園のこどもたちの日常の保育生活から取材したものである(\*1)。本稿では組曲としたが、その前後の連関は特にない。また、楽譜には明示していないものの、曲の構成上、それぞれのつぶやきのエッセンスを損なわない範囲で適宜語句を追補した。
- II, それぞれのつぶやきのニュアンスを可能な限り音楽化しつつ、できる限り、幼稚園教諭や保育士を志望する学生が簡易に演奏できるような編曲を心がけた。そこにおいて特に参考にしたのは「保育のための音楽入門 峯陽 青木書店 1981」である。
- III, それぞれの楽曲の特徴、解説は以下である。

○いもり…あどけなく、けなげな、そして抱きしめたいくなるほどのかわいらしい気持ちでいもりを見つめる気持ちを表した曲。前奏5~6小節のリズムの変化は、いもりを手で捕まえようとして、いもりがびよこっと逃げてしまうシーンをイメージさせた。また、歌の最後を完全終止としなかったのは、いもりが大きくなった時のことを続けて想像している事を暗示させるためである。

○おだんご…明るく鼻歌でも口ずさみながら、元気いっぱいに砂遊びに興じている。6小節目の短い間奏は先生の反応(相槌)だが、それにグリッサンドを付けたのは、先生自身も何らかのエキサイティングな驚きといった反応を示した事を描写したからである。最後の「イエイ！」は実際にこどもが発したものの。

○虫かご…前作「いもり」と比べて、おそらく年長のこどもが口にした説明的ニュアンスのもののゆえ、それに即して曲調を整えた。ある長さを持った後奏は、かまきりを実際に捕まえに行って、捕らえた場面を音楽にした。

○ジャングルジムからジャンプしよう…Maestosoで始まる前奏は、こどもながら「さあ、堂々

と格好良くジャンプするぞ！」といった決意表明を表す。その力感を出すためにメロディは付点のリズムを主とし、ピアノ伴奏も4ビートとした。飛び出す際に、前の順番が詰まっていることにちょっとだけ苛つくが、しかしいざ自分の番となった時に、結構ドキドキしてしまうのに「こわくな-

い」を連発して虚勢を張ってみせる、或いは自分の気持ちを奮い立たせようとする子ども心を、音楽で再現した。

\* 1 幼児教育研究第2集 表現と教育課程研究 県立新潟女子短期大学幼児教育研究会 1997 p.69~

72

## 組曲「ひろがるつばやき」

### いもり

作詞 おおしまひかる

作曲 絹川 文仁

Andante

The musical score is written for voice and piano. It begins with a tempo marking of 'Andante' and a 3/4 time signature. The voice part starts with a rest, followed by a melodic line with lyrics. The piano accompaniment features a steady bass line and a more active treble line. The score is divided into three systems. The first system shows the initial piano accompaniment. The second system includes the voice part with the lyrics 'いもり いもり' and a piano part with an 8va marking. The third system continues the voice part with the lyrics 'まだ あっ ちやいね えさを あげたら' and the piano accompaniment.

Voice

Piano

8va

いもり いもり

まだ あっ ちやいね えさを あげたら

Music notation for the first system, including vocal line and piano accompaniment. The lyrics are: **どん どん おお きく なって どん な こ に な る か**

Music notation for the second system, including vocal line and piano accompaniment. The lyrics are: **な**

# おだんご

作詞 しらいともひろ  
作曲 網川 文仁

*Allegro Viavace*

Music notation for the third system, including vocal line and piano accompaniment. The lyrics are: **キュッ キュッ キュッ キュッ**

Music notation for the fourth system, including vocal line and piano accompaniment. The lyrics are: **キュー せん せい み て み て おだんご**

Music notation for the fifth system, including vocal line and piano accompaniment. The lyrics are: **じょうず に つ く っ た**

よ じょうずにつくった

This system consists of a vocal line and a piano accompaniment. The vocal line is in treble clef with a common time signature. The piano accompaniment is in grand staff with a 4/4 time signature. The lyrics are 'よ じょうずにつくった'.

よ みんなで みんなで

This system continues the vocal and piano parts. The lyrics are 'よ みんなで みんなで'.

たべようね! イエ!

This system concludes the piece. The lyrics are 'たべようね! イエ!'.

## 虫かご

作詞 さいとうゆうき  
作曲 絹川文仁

Andante

Voice

Piano

このかごに おおきな

This system is marked 'Andante'. It features a vocal line and a piano accompaniment in a key with two sharps (D major) and a 4/4 time signature. The lyrics are 'このかごに おおきな'.

かまきり ちいさな かまきり

This system continues the vocal and piano parts. The lyrics are 'かまきり ちいさな かまきり'.



バックをたくさんいれなくちゃ これからつかまえ

This system contains the first line of the musical score. It features a vocal line in treble clef with lyrics, and piano accompaniment in grand staff (treble and bass clefs). The key signature has two sharps (F# and C#).



に ゆ こう

This system contains the second line of the musical score. It continues the vocal line and piano accompaniment from the first system.



This system contains the third line of the musical score, showing further development of the vocal melody and piano accompaniment.



This system contains the fourth and final line of the musical score, concluding the piece with a final cadence.

# ジャングルジムからジャンプしよう

作詞 うんのかほ

作曲 絹川文仁

Maestoso

Voice

Piano

*f*

*ff*

3

3

3

ジャ ン グ ル ジ ム か ら ジ ャ ン プ し ょ う

*mp*

み ん な で い っ し ょ に ジ ャ ン プ し ょ う は や く

*mp*

3

First system of a musical score in D major. The vocal line (treble clef) has lyrics: "いっていっていって こわくない". The piano accompaniment (grand staff) includes dynamics *p* and *f*, and features a triplet in the right hand.

Second system of the musical score. The vocal line continues with lyrics: "たかいところからでも *f*こわくない". The piano accompaniment includes dynamics *mp* and *ff*, and features a triplet in the right hand.

Third system of the musical score, showing piano accompaniment. It features triplets in both the right and left hands.